

令和6年度 第1回安城市市民協働推進会議 議事要旨

日時	令和6年7月18日（木） 午前10時～午前11時30分	
場所	安城市役所本庁舎3階 第10会議室	
出席者	委員	寺田会長、野上副会長、河方委員、清水委員、竹田委員、今永委員、野村委員、筒井委員、高良委員、伊野委員、菊智委員、山本委員 (欠席：西嶋委員、宮田委員、相木委員)
	事務局	横手市民生活部長、早水市民生活部次長兼市民協働課長、竹内市民協働課長補佐兼市民協働係長、市民協働係（杉浦、幸田、近藤、島）
次第	1 市民憲章唱和 2 会長挨拶 3 議題 (1) 第2次安城市市民協働推進計画の進捗状況（最終総括）について (2) 第3次安城市市民協働推進計画について (3) 令和7年度安城市市民活動補助金の募集について 4 その他	

今回の会議の目的

- ・第2次安城市市民協働推進計画の進捗状況（最終総括）の確認・評価
- ・第3次安城市市民協働推進計画の概要説明・進捗管理シートの検討
- ・令和7年度安城市市民活動補助金2次募集の流れの確認

議事要旨

（司会）

それでは、時間になりましたので始めさせていただきます。本日はお忙しいところ安城市市民協働推進会議にご出席いただきありがとうございます。本日の会議におきましては、環境に配慮するとともに、働きやすい職場環境作りの一環として軽装で出席しておりますので、ご理解をお願いいたします。

会議に先立ちまして、4月の人事異動により、職員の変更がありましたので紹介をさせていただきます。市民生活部長横手憲治郎、市民生活部次長兼市民協働課長の早水直美、市民協働課長補佐兼市民協働係長の竹内みどりです。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の委員の出席状況についてご報告させていただきます。ご欠席のご連絡をいただいています委員は、西嶋委員、宮田委員です。本日、相木委員がご不在

ですが、ただいまの出席委員は、安城市市民協働推進会議規則第3条第2項に規定します委員の半数以上に達しており、会議は成立しておりますことをご報告させていただきます。また、今回の審議会に傍聴の方が1名お見えですのご報告させていただきます。それでは、ただいまから令和6年度第1回安城市市民協働推進会議を開催いたします。

1 市民憲章唱和

(司会)

次第1「市民憲章唱和」 市民憲章の唱和を行いますので、ご起立をお願いします。
なお、市民憲章については、机上に印刷したものがございますのでご覧ください。

(市民憲章唱和)

ありがとうございました。ご着席ください。

2 会長挨拶

(司会)

それでは、次第2「会長挨拶」 寺田会長よりご挨拶をお願いいたします。

(会長)

皆さま、本日はお忙しいところ、市民協働推進会議にご参加いただき誠にありがとうございます。7月に入りまして、本当に本格的な暑さを迎えていますが、市内の公共施設では省エネの取組みであるクールシェアの推進及び熱中症対策としてクールシェアスポットが設置されております。市民交流センターでも1階のロビーがスポットとして開放されており、居心地のよい場所作りを心がけております。学生さんの勉強の場としても利用されているようです。

私の活動としては8月24日にアンフォーレで子ども音楽フェスタを開催します。先日も出演者のオーディションを行いました。このイベントは、安城市を音楽があふれるまちへという目標でやっております。オーディションで選ばれた市内外の小・中学生や親子による演奏会です。この市民活動をするにあたり、市民活動補助金を3年間いただいて進めてまいりました。その後は、アイシンググループから3年、今年は安城ロータリークラブから応援していただけるということで、活動も徐々に発展してきたと思います。今年は名古屋を拠点に活躍しております、女性2人のコトノハタラズのライブを予定しています。ぜひ8月においでください。

本日は今年度第1回の会議、そして、委員の皆様の任期最後の会議となります。委員の皆さま方におかれましては、本日は、第2次計画の最終評価と、4月よりスタートしました第3次計画の推進、令和7年度市民活動補助金の流れについてご審議をお願いいたします。それでは本日は皆様のご協力での会議を円滑に進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。それでは、次第3「議題」に移ります。委員の皆さまにおかれましては、ご発言をする場合、必ず挙手をしていただき、指名された後、マイクを持ってご発言していただくようお願いいたします。

それでは、ここからの進行は寺田会長をお願いいたします。

3 議題

(1) 第2次安城市市民協働推進計画の進捗状況（最終総括）について

(会長)

それでは、議事を進めさせていただきます。議題(1)「第2次安城市市民協働推進計画の進捗状況（最終総括）について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

(第2次安城市市民協働推進計画の進捗状況（最終総括）について説明)

(会長)

ただいま事務局からの説明に対してご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

(委員)

資料5の6ページの「ボランティア養成講座開催」についてです。回答では、ボランティア体験プログラムによる活動機会の提供をしていくとありますが、社会福祉協議会に聞いてみたところ、学校等にA3のチラシを配り、クラスに一つは行き届いているようです。そこまで具体的に回答に含めていただいた方が分かりやすいと思いました。今年は募集が終わっていますが、どこの施設がボランティアの募集をしているかはWebサイト上に載っています。もしお子さんがいれば、来年はこれについて話してみると良いと思います。

また、私自身も編集に関わっている協働事例集コネクトですが、これを作ることはいいと思います。しかし、作成後にお披露目会をしたところ、結局関係者+αぐらいしか人が来ませんでした。この中の掲載事例の活動がすでに終わってしまっているものもあります。また、取材に行くのも大変ですし、編集にはとても負荷がかかるため、これを誰がやるのかという問題があります。工夫をして、年に一つ、二つくらいの事例をまとめたものを何かの機会に発表し、その集大成を冊子として5年に1回まとめると負荷がかからなくていいと思います。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。今いただいたご意見のとおり数年に1回の発行です

と、情報として古くなってしまう部分もあるかと思います。冊子を作るのはやはりとても負担のかかる大変な作業かと思いますので、冊子まではいかなくてもチラシのようにA4で1枚にまとめて、最新の情報を今より高い頻度で配布ができればと考えております。

(委員)

私個人としてはこれをやめて欲しくなくて、やるのであればしっかりとやる方向に持って行ってほしいと思います。ボランティアといっても様々なボランティアがあります。例えば、先ほど話題に出ていた小中学生のボランティアは、半強制的にでもやるぐらいに、きっかけがあることがとても大事だと思います。私がやってるインターンシップや、アルバイトなど、そういうところで町との関わりがあるのでやってほしいです。一方で、企業の人もボランティアに対して、半強制的にやる方向になってほしいと考えています。社会貢献として、スキルを持ったボランティア（プロボノ）にこれを作ってもらいたいと思います。スキルがある人からすると、画像や編集作業は簡単です。使用する写真などの素材については、丁寧にマッチングすることを支援し、中心となる団体をみんなで応援していきながら発信していくことは大事です。きちんと予算がつくのであれば、役に立ちたいという方は募集したらいいと思います。

活動がきちんと広まっていくという部分は、単にボランティアの数の増減をみるのではなく、その質にこだわる時期に来ているような気がします。良い活動を企業人、市職員、みんなで力を合わせる事が大事だと思います。重点的にやる事業など、濃淡つけるとよいと思います。多様な働き方の中で自分自身の仕事だけではなくて、やりがいを持って活動している人は、安城市・刈谷市にたくさんいます。また、とても優秀で、サラリーマンとしてだけではなく、もう少し何か貢献したいという方は潜在的にたくさんいます。私は厚労省の委員をやっているのですが、そういった場には、自分の地元ではなく他の地域の活動をたくさんしていて、地元還元してくれたりいのにと思う方がいます。安城の方でなくても良いですが、そういうことができる場を用意し、地元で眠っている財産・資産を活用していけるといいと思います。

(会長)

町内会・自治会では、去年からデジタル化推進として様々なところでLINEのオープンチャットを使って連絡事項を回覧したり、ZOOMをやられてるところもあります。この冊子も、デジタル化して配信することを進めていけば印刷費がかからないと思います。他の町内会で聞いた話だと、デンソー社員の方が役員になりデジタル化を進めたようで、会社でいつもやってることだから労力はかからないようです。そういう方の発掘は大切だと思います。私の町内会でも500世帯のうち90世帯がオープンチャットでの情報提供で、回覧板を回さなくてよい状況です。ただ、市を含めまだ紙媒体でしかチラシなどが来ないため、スキャナーで読み取ってデータにしていますが、PDF等のデータでいただくと良いと思います。

(委員)

先ほど委員がおっしゃったことは基本的に私もそうだと思います。しかし、民間企業でそれをメインとして収入を得られている方たちは、なかなか動きたくても動けないのでその辺りを加味しつつ、進めていっていただけるといいと思います。また、こういった仕組みや情報の認知をどう上げていくかですが、例えば市内の高校にはボランティア部などがあります。新聞や冊子を自分たちで作って発表したり、配ったりしています。その学生さんたちに、コネクトの冊子の編集などを部活動としてお手伝いいただくと、その学生さんたちが大人になったときに、こういったことに携われるという道を作ってあげられると思います。今だけではなくて、5年後10年後成長して大人になったとき、市の仕組みなどがわかっていると市政への関わりのハードルが低くなって理解が早いと思います。若くてこれから育っていく学生さんの力を借りていくことも一つだと思います。

(会長)

安城学園にもインターアクト部という、いろんなボランティアやっているところがありますね。そういうところと一緒に冊子作成をされると良いかもしれないですね。

皆様には、2年間にわたり本会議に携わっていただきましたが、学識の今永先生より、2次計画に対する講評をいただけますでしょうか。

(委員)

皆さんとたくさんの時間をかけて本質的な中身の細かいところまで議論できたと思います。特に第3次計画は、今までの延長線上で継続しているものもありますが、新しく取り入れるものと、チャレンジ目標を置き、現在の課題を踏まえながら、重点的に取り組んでいくところとそうでないところをきちんと仕分けしながら、途中でも改善していくというメッセージがたくさんあったと理解しています。

この瞬間の計画としては、最善を尽くしたと思いますが、一方で8年間は長いですし、今の社会環境や状況はめまぐるしく変わってきています。何となくA評価がたくさんあったから良いというよりは、いかに課題が出てきて、それが改善できて変化したかを評価するような時代になってきていると思います。そのため、いろんな部署の人、主役である市民の方たちをはじめ、ここに関わる人たちがそれを理解し、この基本目標やチャレンジ目標、重要ポイントが実現できているかというところを目指しながら、それに向かってみんなで見ていくことが、大事だと思います。安城市の活動は素晴らしく、素敵の方々が関わっていると思いますので、それが継続・発展、改善につながっていくといいと思います。私自身もそれに関心を持って、当事者として貢献できたら嬉しいと思っています。

(会長)

第2次計画はコロナ禍ということで6年のうち3、4年もコロナで活動ができず、

なかなか成果を出すのが大変だったと思います。会議が開催できなくて、ZOOMでの会議が発展していきました。市民活動補助金の本審査もオンライン開催となり、動画制作に初めて取り組みましたが、補助金以上の経費がかかったような気がします。そのときは大変でしたが、次のアイシンググループの補助金申請については、ここで作ったデータや書類、動画もそのまま使えました。当時は大変な時代になったと思っていましたが、取り組んできてよかったと思っています。実際、子ども音楽フェスタのオーディションも半分以上が動画でした。その技術は町内会自治会でも受け継いで、会議に出れない人はZOOMで参加していただいています。第3次計画についてはこの後の議題2で説明がありますが、状況に応じて随時、取組みなどを変えていっていただければいいと思っています。

（２）第3次安城市市民協働計画推進計画について

（会長）

続いて、議題（２）「第3次安城市市民協働計画推進計画について」、事務局より説明をお願いします。

（事務局）

（第3次安城市市民協働計画推進計画について説明）

（会長）

ただいまの事務局からの説明に対して、ご質問、ご意見等がございましたらお願いします。

（委員）

進捗管理を行い、このシートを記入する課は3つぐらいしかないと思うので、各課の担当者に個別に何が変わったかや、どう記入するかを説明してもらいたいと思います。市民協働課の事業が多くあるので、率先して頑張って書いてほしいと思います。特に、チャレンジ目標につながる取組みなどを記入していただくところは良いですが、PDCAのCの進捗度と課題のところは何か悪いことを書くといけないみたいに捉えられがちです。そこは実績から見えてきた課題の中で、ぜひやってみてよかったこと、リフレクション（内省）を書いてほしいと思います。やってみて分かった良いことだから、次もやるんだというところが、さらっと一言ではなく、きちんと理由などをもっと枠から溢れても良いので書いてほしいです。そうしないと何のために継続してるか分からないですし、それでも出来なかったとかBやC評価になっても、それは難しい課題・そこに取り組む価値があるから行政の施策としていると堂々と言い切してほしいです。

そうなれば、なぜできなかった、だからこうするなど、いくつかの階層になって課題が出てくると思います。実績がなかったとしても活動しており、実際は資料や報告

書があると思います。それを炙り出すために、堂々と書いて展開してもらえると中身があるものになっていくと思いますし、そうするとみんなに波及していくと思います。少し作業が大変かもしれませんが、そこを可視化していくというところがやはり大事だと思います。改善点に対して変化するプロセスに価値があるという点が魂のところだと思います。必要であれば私もポイントなどをお伝えします。やってみると、こっちのほうが良いというのが出てくると思うので、書き換えていき、そのノウハウをマニュアルや動画で蓄積すると魂がこもると思います。せっかくいい計画を作って、OODAループが回るようになっているので、その部分を頑張っていただければいいと思います。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。出来上がったシートに関しては各課にこちらの思いも伝わるように説明ができたらと思います。

(委員)

私も第3次計画の策定に関わりましたが、少し視点を変えないといけなかったのではと思うことがありました。課題があったら解決策を考えようと言ってる間に、別の問題を探した方が別の問いが見つかってそれを解決したら、その前の課題も解決の方向に向かっていくという考え方です。

私が保護司として集会に参加した際に、自分の会社で雇用している子が、中学を卒業しても自分の名前が漢字で書けなかったという話を聞きました。社会がその子の状態に気づいて、何とかすることができなかったのかと思いました。このような場合、協働事例集を参考にしてもその問題は全く解決しません。事例集を作るのも良いですが、まだ解決されてない課題をストックしておいて、課題を解決できる団体を募集するのはどうかと考えます。

(会長)

第3次計画については、実施段階でフォローしていただければと思います。

(委員)

先ほどの話に追加です。このシートの中で「チャレンジ目標につながる取組みや事業成果、新たな動きや成果があれば記入」と書いてありますが、ぜひ他課や外部の方、企業、産学連携なども書き込んでいただけるように言っていただき、このマルチパートナー型協働へ進化していることがうかがえることを書いてもらえると嬉しいです。基本政策の中で、1-(1)と分けて書いていただき、基本施策、基本方針はありますが、かなり複雑に絡み合ってるので、他課でやったことも、他もやりましたと書いて加点を取ってほしいと思います。

縦割りでやっていくとその中で終始してしまいます。イメージとして、課題に対し

て実態が1より少ない0.8倍とかが続くと小さくなっていきますが、横の人と一緒に連携しながら、1を超えて掛け算になっていくと大きく良いものになっていきます。最後にどうやってまとめるかは後で考えるとして、それがチャレンジ目標のマルチパートナーシップ型協働の意味だと思っています。実際、課題のところは微妙な感じでストックされていくと思いますが、これまでは書ききれない三遊間のところがあったので、重なってもいいので書いていただけるとより良くなると思います。

(3) 令和7年度市民活動補助金の募集について

(会長)

続きまして、議題(3)「令和7年度市民活動補助金の募集について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

(令和7年度市民活動補助金の募集について説明)

(会長)

事務局の説明に対してご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。募集を2回やるということですね。

(委員)

事業着手が4月1日からとありますが、年度の初め頃に、セミナーとかイベントを行う場合、その周知でチラシを作ったり、広報活動を4月前に始めてしまっても良いのか、領収書が3月になるといけないということでしょうか。

(事務局)

1次募集は事業実施が4月1日以降となっているため、領収書の日付も4月以降のものでないと対象経費となりません。同様の考えで、2次募集の場合は、事業実施が8月以降になるので、8月以降の領収書から対象となります。

(会長)

アンフォーレや市民会館もそうですが、1年前から会場の予約が必要です。アンフォーレは先払いです。事業の日付けをみて対象経費を算定していただければよいのですが。補助金の申請をして取り下げた方は、4月以前に宣伝や経費をかけてるかもしれません。そうすると使い勝手の良い他の補助金の対象のところに移ってしまった可能性はあると思います。

私も市の補助金と民間の補助金と二股をかけてましたが、やはり時期的・金額的な問題があると感じたので、柔軟になると良いと思います。2度募集することは良いことだと思います。申請が増えるといいと思います。

(委員)

どこに補助を出していただけるかというところで、考えながら、当てはまるところに補助金の申請をしていると思います。この流れとしては決まりもあるので、お互いに調整を取れていけたらと思います。

補助金額の見直しを今後考えていくときに、なぜ残予算が出てくるかを考える必要があると思います。会長もおっしゃったように民間の補助と市の補助と比べたとき、資料のやり取りや準備と金額で考えると民間の補助を選ぶという場合が多いと思います。最初からこれだけもらえると本当に助かる、いいものが作れる、市のためになるというものがあれば、多分残予算という言葉が減ってくると思います。みんな頑張っって申請しようとするようになっていくと思うので、そういう流れを考えていくのもいいかと思います。

(会長)

公共施設は会場使用料を全額、1年前に払わなければならないので、開催のときに支払いができるようにしていただきたいです。

(委員)

私も去年審査をした際に、質問を書いたのですが、中身がちゃんとしていれば、基本質問しなくてもいいのではないかと思います。委員一人ひとりが団体に対して一つずつ質問して、また回答をするという流れが、果たして本質的な話かという、疑問が残る感じがします。違う市町村でも同じようなご意見がありました。活動をした人は思いがあって活動をしています、その人が書類を作るのが上手いわけではないパターンが多くあります。いろいろな活動とパラレルでやっている人からすると、そこに時間をかけない場合があります。簡単に要点だけ書いてあげるとか、プレゼンテーション審査と重ねるような様式を作るとか、ダイナミックに改善してあげた方が良くかもしれません。本質的に足りないところ、分からないところは質問したらいいと思いますが、今のやり方をしてしまうと、委員は良かれと思ってたくさん質問をし、それに対してまた回答するというやり取りは、申請側からするとストレスだろうと思います。検討する価値は高いかもしれません。

(会長)

これについては、事務局は検討してください。2次募集をやるということで、よく改善されていると思います。申請がたくさん増えることを願っています。

昨年からの審議会の会長をやっているのは、膨大な量の事業、指標、評価があります。当然、市民協働課が補助金を出している事業は全部評価していると思います。しかし、評価する事業を減らしていただくと審議会としては分かりやすいと思います。社会福祉協議会の事業は町内会とか、福祉事業者とかが集まる場で話をした

方が、より良い話が出るのではないかと思います。専門性が高いとコメントもしづら
いと思います。社会福祉協議会は市民協働課以外ですと一番事業が多いため、分けて
考えたらどうかと思います。令和7年度市民活動補助金はこの流れで進めていきたい
と思いますのでご承認願います。

(会長)

議題については、皆さまのおかげをもちまして、以上で終了となります。ここから
の進行は、事務局でお願いします。

4 その他

(事務局)

ありがとうございました。次第4「その他」につきまして、事務局から説明させて
いただきます。

(事務局)

(その他について説明)

(事務局)

それでは最後に、課長からお礼のことばを述べさせていただきます。

(課長)

本日は、長時間にわたり、貴重なご意見をいただき、また、議題につきましてご承
認いただき、誠にありがとうございます。また、今回が委員の皆さまの任期最後の審
議会となります。改めまして、計画策定にご尽力いただきありがとうございました。
本日いただきましたご意見を踏まえ、計画を推進してまいります。

なお、本日の資料及び議事録につきましては、市公式ウェブサイトへ掲載し公表し
てまいりますのでよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、令和6年度第1回安城市市民推進推進会議を終了いた
します。ありがとうございました。

会議の確認・承認事項

- ・第2次安城市市民協働推進計画の進捗状況（最終総括）の確認・承認
- ・第3次安城市市民協働推進計画の概要確認・進捗管理シートの検討
- ・令和7年度安城市市民活動補助金2次募集の流れの承認

課題

- ・市民活動・ボランティア人材の発掘、プロボノや学生の活用

- ・進捗管理シートの検討、記入方法周知
- ・市民活動補助金の審査書類の簡素化